JPEC Journal
No.261101

2026 年 11 月

企画調査部

加速する中国のグリーン燃料標準戦略
～国際市場への「入場券」と国内産業の移行経路～

◇中国は 2025 年 12 月、業界標準『グリーン合成アンモニア（中国語名：緑色合成氨）』（NB/T 11967-2025）と『グリーンメタノール（中国語名：緑色甲醇）』（NB/T 11968-2025）を公表し、2026 年 6 月に施行した。国際海運の脱炭素を背景に、燃料の環境価値が価格形成に反映され始めている。今回の標準整備は単なる環境対応ではなく、新しい市場への参入機会を広げ、供給国としての地位を確立しようとする動きである。

◇両標準の焦点は「双軌（二本立て）」にある。メタノールでは、電解水素由来の I 級 1 類を EU の RFNBO 要件に、バイオマス由来の I 級 2 類を EU バイオ燃料の上限値にそれぞれ合わせて輸出市場への参入を目指す一方、質量平衡法や、III 級に非化石炭素源を組み合わせる移行ルートも残している。今後の課題は、認証制度の整備、国際的な相互承認、CCER（注）による価値化などである。制度はなお途上にある。

◇日本企業には三つの備えが求められる。第一に、「グリーン」という表示ではなく等級と一次データで見極めること。第二に、中国を供給国として早い段階から対話を始めること。第三に、商機を個社競争ではなく、認証やインフラといった「ルールと仕組」の領域に見出すことである。

（注）CCER（China Certified Emission Reduction：中国当局が認証する自主的な温室効果ガス排出削減量）

この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。
お申し込み後、続きをご覧いただくための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧いただけます。

続きを読む

◆情報提供サービスのお申込みはこちら ＞
◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください ＞